

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0487 ◆◆◆

18/06/13

## 【トルコとメキシコ、1ヵ月以内に実施される重要選挙に注目】

金融市場のみならず、世界中の関心を集めた米朝首脳会談も無事終了。内容的にはまだ精査するところはあるそうだが、取り敢えず「朝鮮半島の完全非核化」の約束を勝ち取ったとされることで、アジアの地政学リスクがさらに後退することを期待する声も少なくない。

しかし、世界情勢を振り返ってみると、11月に予定されている米中間選挙を筆頭に、10月のブラジル大統領選など、ここから数ヵ月、各地で注目選挙が相次ぐなど政治ファクター的には、予断の許さない状況はまだしばらく続きそうだ。今回の当レターでは、そのうちの2つ、1ヵ月以内に実施される重要選挙をピックアップし、以下で情勢などを報じてみたい。

### << トルコ大統領選と国会総選挙 >>

両選挙ともはもともと19年11月に実施予定だったが、1年以上も前倒しで実施されることになった。6月24日に投票される予定だ。

うち前者である大統領選には、国会に議席を持たない小政党の党首も含め計6人が立候補を届け出ている。ただ、実際のところは現職である与党・公正発展党のエルドアン大統領と、最大野党・共和人民党から出馬したインジェ議員、新党「優良党」を立ち上げたアクシェネル元内相の三つ巴の戦いになるとの見方が有力だ。

現職のエルドアン氏は、かつて軍によるクーデター未遂をきっかけに、政府に強い権限を与える非常事態を宣言。野党の党首や新聞社の幹部などを相次いで拘束するという強権を発動したことで独裁的な一面をみせたうえ、今年5月にトルコリラが一時急落、経済面でも労働者階級を中心に求心力が大きく低下している感を否めない。

ちなみに、トルコの大統領選は、1回目の投票で過半数を獲得した人物があれば、文句なしにその候補者が大統領となるが、誰も過半数を獲得しなかった場合には、「上位2名による決選投票が行われる」という方式。そして、発表される各種世論調査によると、エルドアン氏は40%強の支持を集めトップを走っているものの、過半数には届いていない状況だ。

一方で、野党サイドは、仮に決選投票となった場合、共闘する方針を決めていることで、統一野党候補が逆転勝利を収める可能性も取り沙汰されているという。

最後に、大統領選でエルドアン氏が再選した場合、これまでの欧米と一定の距離を置く関係性が維持されることが見込まれる反面、ほかの候補が勝利を収めた場合には欧米との協調路線に舵を切る公算が大きいと予想されている。いずれにしても、トルコ大統領選の結果は、ユーロを中心に金融市場へ大きな影響を与える危険性を秘めていると言えそうだ。

### << メキシコ大統領選 >>

現職のペニャニエト大統領の任期(6年)満了にともなう、選挙が7月1日に行われる。

過去2回大統領選に出馬しいずれも落選、今回「3度目の正直」を狙う新興左派の元メキシコ市長・ロペスオブラドール氏が選挙戦をけん引する格好で、野党・国民行動党の党首を務めたアナヤ氏、与党・制度的革命党が推すミード元財務相などと競り合っている状況だ。現地では、実質的に、この3氏による争いになると予想されているという。

メキシコでは現政権に対し、「対米関係が弱腰」などといった批判が強く、それもあり有力3候補とも、たとえばトランプ米大統領が提唱する「国境の壁建設計画」の費用負担を拒否する考えなどを明らかにしている。とくに、選挙戦を引っ張るロペスオブラドール氏に、「対米批判」の傾向が強くみられるとの指摘もあるようだ。

したがって、仮に現在の情勢のまま選挙戦が進み、ロペスオブラドール氏が当選した場合、対米関係の悪化を懸念する声は国内産業関係者などから数多く指摘されている。エコノミストなどのあいだでは、なかな

